

今月の主な内容

- 1面:震災14年目
- 5面:第100号記念特集
- 8面:神戸大10大ニュース



携帯HP

神戸大学ニュースネット

NEWS NET

©神戸大学ニュースネット委員会 <http://home.kobe-u.com/top/newsnet/index.html>
 関西学生報道連絡共同編集室 〒532-0011大阪府淀川区西中島3-21-9-502
 電話06-6307-1315 FA X06-6307-1316 メールnewsnet@kobe-u.com

しらすな会
 歌式・硬式ピッチングマシン貸出無料!
 体育館・野球場・テニスコート・その他手配万全!
南紀白浜サークル
合宿情報
 〒649-2211 和歌山県西牟婁郡白浜町2525-4
 電話0120-53-1662 本紙のみの特典あり!
<http://www.shirasunaka.jp/>

2・3月号

阪神淡路大震災から14年

あの日の記憶いつまでも

慰霊碑に多くの花

遺族らの思い込めて

6434人が犠牲になった阪神淡路大震災から14年。神戸大では六甲台キャンパス慰霊碑前で1月16日に黙とうおよび献花が行われ、17日には遺族らが慰霊碑を訪れた。

例年、震災当日の17日に行われる黙とうおよび献花は、17日から行われる。17日からは黙とう、16日は献花が行われ、17日には遺族らが慰霊碑を訪れた。



慰霊碑前で献花を行う遺族ら。(1月16日・六甲台キャンパス慰霊碑で 撮影=西田健悟)

ター試験の影響で、今年16日に前倒しして行われた。野上校長に続いて、大理事・幹事、遺族、大学関係者が慰霊碑に向って手を合わせた。

震災から14年が経過しても、その記憶が薄れることはない。むしろ鮮明になりつつある。森下さん(当時)の思いを語った。

習。正午ごろから遺族らが慰霊碑を訪れた。遠方に住む遺族らにとっては年に一度、他の遺族らと会える機会だ。1年ぶりの再会を喜ぶ遺族ら。だがその笑顔の裏には、14年を経ても癒えぬ傷が残っている。

年に3度慰霊碑を訪れる藤原信弘さん(当時)は「息子の死を」納得していない。年月が経てば経つほどその思いは強くなっていくと口にした。

今年初めて献花を訪れたという江口怜さん(発達・3年)は「被災してない自分がどこまで痛みを分かっているのか」と献花の際の思いを語った。

【震災取材班】

上野さん
 パネル展を見学

震災で当時発達科学部2年だった娘の志乃さんを亡くした上野政志さんが1月14日、神戸大に来学。震災のことや社会的活動に取り組む学生の紹介をしようとして、都市安全研究センターなどが工学部の木製遊歩道「リバーロード」で開催したパネル展「こころの記憶」の回廊―阪神・淡路大震災と神戸大の14年―(13日〜16日)を見学した。



パネル写真を見る上野さん。(1月14日・リバーロードで 撮影=濱田直毅)

【震災取材班】

上野さん
 パネル展を見学

震災で当時発達科学部2年だった娘の志乃さんを亡くした上野政志さんが1月14日、神戸大に来学。震災のことや社会的活動に取り組む学生の紹介をしようとして、都市安全研究センターなどが工学部の木製遊歩道「リバーロード」で開催したパネル展「こころの記憶」の回廊―阪神・淡路大震災と神戸大の14年―(13日〜16日)を見学した。

【震災取材班】

上野さん
 パネル展を見学

震災で当時発達科学部2年だった娘の志乃さんを亡くした上野政志さんが1月14日、神戸大に来学。震災のことや社会的活動に取り組む学生の紹介をしようとして、都市安全研究センターなどが工学部の木製遊歩道「リバーロード」で開催したパネル展「こころの記憶」の回廊―阪神・淡路大震災と神戸大の14年―(13日〜16日)を見学した。

社会人に圧勝

第54回えびすボウル

アメリカンフットボールの関西学生選抜とアメリカンフットボールの関西学生選抜と対戦する「第54回えびすボウル」が1月10日、王子スタジアムで行われた。今回のえびすボウルは選抜された4年生のみ出場。試合に出る4年生はこれが大学最後の試合となる。神戸大からはQB大原(経済)、K阪本(法)、OL河野(国文)、DL春山(法)が選出された。

雪やみぞれが降りしきる悪天候の中、最初に試合を聞き、取り消しに至った経緯の説明を企業に要求する。補償金を含めたその後をケアも、アドバイザーのカウンセリング等を通じて行っていくという。

【浅井淳平】

企業による内定取り消し

一方、12月中旬に通告を受けた女子学生は、既他企業への就職が内定しており、内定を取り消された企業への補償金等について調整を続けている。

内定取り消しについては、労働基準法での規制は特になく、そのため補償金の支払い額は、当事者側と企業側との話し合いに委ねられる。

大学側の対応としては、内定取り消しが発覚した段階で当事者の学生から事情

【浅井淳平】

企業による内定取り消し

一方、12月中旬に通告を受けた女子学生は、既他企業への就職が内定しており、内定を取り消された企業への補償金等について調整を続けている。

内定取り消しについては、労働基準法での規制は特になく、そのため補償金の支払い額は、当事者側と企業側との話し合いに委ねられる。

大学側の対応としては、内定取り消しが発覚した段階で当事者の学生から事情



表彰を受ける大園。(1月10日、王子スタジアムで 撮影=稲垣祐希)

【新田理絵】

企業による内定取り消し

一方、12月中旬に通告を受けた女子学生は、既他企業への就職が内定しており、内定を取り消された企業への補償金等について調整を続けている。

内定取り消しについては、労働基準法での規制は特になく、そのため補償金の支払い額は、当事者側と企業側との話し合いに委ねられる。

大学側の対応としては、内定取り消しが発覚した段階で当事者の学生から事情

【新田理絵】

企業による内定取り消し

一方、12月中旬に通告を受けた女子学生は、既他企業への就職が内定しており、内定を取り消された企業への補償金等について調整を続けている。

内定取り消しについては、労働基準法での規制は特になく、そのため補償金の支払い額は、当事者側と企業側との話し合いに委ねられる。

大学側の対応としては、内定取り消しが発覚した段階で当事者の学生から事情

将来のノーベル賞候補

医学研究科・松下麻衣さん

医学研究科修士課程2年の松下麻衣さんが、ノーベル財団が後援して開催しているストックホルム国際青年科学セミナー(QRNS)に神戸大から初めて派遣された。

同セミナーは世界各国の若手研究者を対象に毎年ノーベル賞授賞式に合わせて実施される。18歳から25歳までの学部・院生の中から財団法人国際科学技術財団(ISTF)が全国の大学から1人ずつ推薦者を募集。毎年10人を派遣している。

「たまたま掲示板で見て面白そうと思った。まさか私が」と選出に驚いたという。同じ研究科の学生が応募していたことも後押しとなった。

セミナーは12月4日から1週間、ノーベル賞授賞式のほか、参加者の研究発表、受賞者も参加する晩さん



【伊崎春樹】

【伊崎春樹】

企業による内定取り消し

一方、12月中旬に通告を受けた女子学生は、既他企業への就職が内定しており、内定を取り消された企業への補償金等について調整を続けている。

内定取り消しについては、労働基準法での規制は特になく、そのため補償金の支払い額は、当事者側と企業側との話し合いに委ねられる。

大学側の対応としては、内定取り消しが発覚した段階で当事者の学生から事情

はしか対策を発表

証明カードで選別

受講禁止も

神戸大は昨年12月18日、はしか感染の拡大防止策を発表した。ワクチンを接種したか、血液検査で十分な抗体が確認された学生に神戸大が証明カードを発給する。また新入生に対しても

神戸大では昨年4人がはしかを発症し全学休講。昨年11人が発症し経済学部が休講となった。そのため大学では昨年8月から、大学の一部負担で一人千円の抗体検査と無料のワクチン接種を実施。金学生のうち推定抗体保有者は約93パーセントにまで上昇した。

今回の制度では、教育実習や部活動の対外試合なども、カードを提示すれば参加できる。授業に出席できなかった学生には補講で対応する予定。

落研の新春寄席

あふれる初笑い

神戸大落語研究会による新春寄席が1月16日、神戸学生青年センターで行われた。会員による落語や大喜利は会場を笑いの渦に巻き込んだ。

第4代会長の甲斐大輔さん(法・2年)は「お客さんの反応がよかった」と笑顔を見せた。【石本真樹】

伏流水

百、100、one hundred. これら全て100という抽象概念を表すものである。考えてみれば、数字とは不思議なものである。これ自体は単なる概念にすぎないものが、後に名詞を伴うことで、現実のものとして現れるのである。例えば、100に円をくっつけることで、100円という通貨を表す言葉になる。▽他にも数字は活躍する。年齢などのあらゆるものを表すのに。今度は、100に年という言葉をくっつけてみる。すると、100年という言葉になる。これは、1世紀に相当する長い年月である。なぜこんなに、100のことばかり書いていくのかそれには訳がある。実は、ニュースネットは今号で100号となるのだ。▽100号というのは、一つの節目である。神戸大ニュースネットの創刊号が発行されたのは、1995年9月である。ここから、約17年間の間、数多くの先輩の努力、皆様の応援、取材協力により続けられ、現在にいたる。私たちは、これから200号に向けて新しいスタートを切ります。また、今号からは紙面をカラー化するという新しい試みも始まる。次の200号への長く険しい道のりが、無事達成できることを祈るばかりだ。

【田辺翔吾】

就活に…この新聞。

先が読めない時代だからこそ、読む。

朝日新聞
 日本経済新聞

E-mailでのお申し込みはこのQRコードで!

info@asa-takaha.com

試読・購読のお申し込みは

ASA 高羽

0120-084013

神戸市灘区土山町1-13
 ※但し、灘区在住の方に限ります

http://www.asa-takaha.com

NEWS NET 創刊から100号



震災直後、倒壊したJR六甲道駅。ニュースネットの歴史はここから始まった。(ニュースネット委員会所蔵)

震災とともに歩んだ14年 積み重ねた100の紙面

平成7年6月に発足した神戸大ニュースネット委員会は今年で創刊から100号の節目を迎えた。震災を機に発足し、震災とともに歩んだ14年。日々の取材と変わりゆく大学という世界の中を生き抜いたニュースネットの軌跡を追った。

「神戸大学ニュースネット委員会」は平成7年5月、神戸大学放送委員会から分離し、同年6月に独立。放送委員会と入れ替わる形でUNN関西学生報道連盟(以下「連盟」)に加盟し、以後阪神・淡路大震災を中心に取材活動を続けた。

前身の放送委員会は平成3年に連盟設立を呼びかけ、立命、同志社などの関西圏の大学と活動していた。だが、平成7年1月に起きた阪神・淡路大震災を機に、ネットワーク取材部門が独自の活動を展開。同年5月に放送委員会と分離、翌年にはニュースネット委員会として独立した。初の本紙発行は同年9月。6月に実質的な創刊

写真で振り返る歴史 移りゆく10年

震災から4年。ニュースネットは関西「Tribune」、神戸大「KUP」の共催で震災写真展「大学から1999」を開催した。神戸学生青年センターから始まり、神女院大、関学、三宮フェニックスプラザを巡回。青年センターでは65、三宮では100を超えてのアンケートを回収した。「震災を忘れないため」。

震災から4年。ニュースネットは関西「Tribune」、神戸大「KUP」の共催で震災写真展「大学から1999」を開催した。神戸学生青年センターから始まり、神女院大、関学、三宮フェニックスプラザを巡回。青年センターでは65、三宮では100を超えてのアンケートを回収した。「震災を忘れないため」。

年表で振り返るニュースネットの軌跡

すべては「1.17」から始まった

ニュースネットの歩み

震災に関わる活動記録

- 91年4月 神戸大学放送委員会がネットワーク設立を呼びかけ 神戸大、同志社、立命のネットでスタート
- 91年7月 UNN関西学生報道連盟設立 関学も加盟し、4大学ネットに
- 95年1月 阪神・淡路大震災発生 放送委ネットワーク取材部門の配信記事を共同通信が転載
- 5月 放送委がネットワーク報道部門を分離
- 6月 神戸大ニュースネット委員会が発足 学内紙「NEWS NET」の実質的な創刊号となる「硬式野球神京戦」号外を発行
- 9月 本紙「NEWS NET」の定期号を創刊
- 96年6月 ニュースネット独自のホームページを神戸大サーバー上に開設 インターネットでのニュース配信開始
- 99年1月 ホームページ掲載ニュースが1000本に
- 99年4月 公認団体(文化総務所)に昇格
- 00年10月 携帯電話サイトへのニュース配信開始
- 01年7月 UNNが設立から10周年を迎える
- 02年1月 本紙が創刊から50号を数える
- 04年4月 新入生歓迎連続講演会「メディアをめざす人へ」を開催
- 7月 ホームページのアクセス30万件を突破 9月27日の神戸新聞に取り上げられる
- 07年8月 携帯版サイトを一時休止 翌年2月再開
- 09年1月 学内の4団体と共同でパネル展開催 ニュースネットの14年を回顧

- 95年1月 1月17日、阪神・淡路大震災が発生 44人の神戸大関係者の命を奪い去った
- 96年1月 震災特集「阪神大震災から1年」 遺族の追悼手記を掲載
- 97年1月 震災特集「被災下宿は今」 関学、神女院大との共同編集開始
- 98年1月 震災特集「いま、後輩たちに伝えたいこと」《三大学アンケート》
- 99年1月 震災写真展「大学から1999」3大学で共催 震災特集「震災写真展」大学から1999一震災発生から現在までの記録
- 99年7月 「語り継ぎたい。命の尊さ～阪神大震災ノート」読者ページを公式HPで公開
- 00年1月 震災特集5年目の追悼手記 「亡くなった31大学111人へ」
- 01年1月 震災特集「覚えていますかあの日のことを」
- 02年1月 震災特集「震災7年目の学生達」
- 03年1月 震災特集「体験者として伝える事」
- 03年5月 緊急連載「大学から震災の灯は消えたか」
- 04年1月 震災特集「特別版」大学から震災の灯は消えたか
- 05年1月 震災特集「被災下宿 変わりゆく街で」
- 06年1月 震災特集「大学だからできること 防災へのとりくみ」
- 07年1月 震災特集「教訓を生かす 大学の今」
- 08年1月 震災特集「阪神・淡路大震災から13年」
- 9月 震災から5000日 4遺族が六甲台で再会
- 09年1月 震災特集「14年後の被災地、留学生と震災」

【ニュースネット編集部】

100号を迎えるにあたり、やはり欠かせないのが震災の存在です。

震災を機に生まれた報道団体―他大学の学生新聞と一線を画するアイデンティティを持つニュースネットは、14年という大学1年生の歳より短い年月の中で、とても濃い時間を過ごしたと感じます。1年目の追悼手記や4年目の震災写真展、8年目の緊急連載など、100号特集の編集を通じて改めて、先輩たちの努力と残したものの偉大さを感じました。

今の自分たちに何が出来るのか、何をしなければいけないのか。来年、震災から15年の節目を迎えるにあたって、新たな課題と模索の時間を与えた今回の特集。99の紙面が放つ先人からのメッセージを背に受け、ニュースネットが新たな境地に踏み出す第一歩としてこの特集をお読みいただけたら幸いです。

2009年。ニュースネットを始めた学内の5団体によるパネル展「100の軌跡」の開催。阪神・淡路大震災と神戸大の14年。が工学部の遊歩道で行われた。震災を機に発足した5つの団体が刻んだ14年の歳月を34枚のパネルにして展示。ニュースネットは、亡くなった44人の家族やゼミの

「震災を風化させない」。それが報道に携わる私たちの願いであり、使命でもある。

1月に行われたパネル展。震災からの14年の歴史が刻まれている。(1月13日、工学部遊歩道「うりぼろロード」で 撮影=伊崎春樹)



1月に行われたパネル展。震災からの14年の歴史が刻まれている。(1月13日、工学部遊歩道「うりぼろロード」で 撮影=伊崎春樹)

震災、だけじゃない 学内総合メディアを目指して

神戸大ニュースネット委員会は震災報道以外にもさまざまな取材に取り組みしています。

昨年の次期学長選での選挙速報や、学内最大規模の学祭「六甲祭」の速報と号外配布といった文化報道、2000年に神戸大を含む学生2人が国主催の研修登山で亡くなった「大目岳遭難事故」では8年間にわたる報道を続けました。

また、関西一部に所属するアメフトや、昨夏大学日本一に輝いたフットサルなどのスポーツ報道。スポーツ・文化を問わず即時アップを目指し24時間365日速報体制を敷いています。

初代編集長 里田明美さんに聞く ニュースネット裏話?

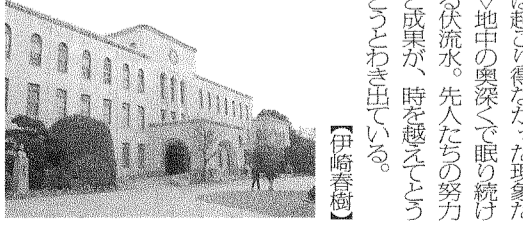
半ばにして亡くなったという事実。放っておけなかった。震災から数日後、学内の取材を始めた。同じサークルの仲間と一緒に、被災者から差し出された炊き出しに人の温かさを感じた。

「あなたたちを忘れない」。メンバーの気持ちが一つとなり、教職員などを含めた44人の犠牲者の遺族から手記を集め、本紙に掲載した。15回目の「100」。ニュースネットの原点である震災取材が新たな世代へ語り継がれた。

～編集後記～ 100号を振り返って

100号を迎えるにあたり、やはり欠かせないのが震災の存在です。

震災を機に生まれた報道団体―他大学の学生新聞と一線を画するアイデンティティを持つニュースネットは、14年という大学1年生の歳より短い年月の中で、とても濃い時間を過ごしたと感じます。1年目の追悼手記や4年目の震災写真展、8年目の緊急連載など、100号特集の編集を通じて改めて、先輩たちの努力と残したものの偉大さを感じました。



【伊崎春樹】

私が見学会に参加したのち、気がつけば取材に備り出される毎日。文化を専門としながらも、陸上、アメフトなど手広くこなし、いつの間にか他大学のトップ記事も書くようになった。今回も書こうと思った。14年という大学1年生の歳より短い年月の中で、とても濃い時間を過ごしたと感じます。1年目の追悼手記や4年目の震災写真展、8年目の緊急連載など、100号特集の編集を通じて改めて、先輩たちの努力と残したものの偉大さを感じました。

伏流水

私がニュースネットに出会ったのは一昨年の4月。朝日新聞見学会に参加したのち、気がつけば取材に備り出される毎日。文化を専門としながらも、陸上、アメフトなど手広くこなし、いつの間にか他大学のトップ記事も書くようになった。今回も書こうと思った。14年という大学1年生の歳より短い年月の中で、とても濃い時間を過ごしたと感じます。1年目の追悼手記や4年目の震災写真展、8年目の緊急連載など、100号特集の編集を通じて改めて、先輩たちの努力と残したものの偉大さを感じました。

悲願の大学日本一



決勝も圧勝

全日本大学フットサル大会が8月22日から24日にかけて舞洲アリーナで行われた。予選トーナメントを全勝で1位通過した神戸大フットサル部は、勢いそのままに決勝の福山大学サッカー部戦でも12-2で勝利し、史上初の大学日本一を決めた。これにより、フットサル部は、史上最高の成績を挙げた。

学日本一は最低限の目標だった。だから、準決勝で流経大に7-4でリベンジを果たし、決勝でサッカー部相手に10点差をつけて全勝優勝したことに価値があった。これで日本のフットサル界に貢献できたかな。B小仲(発達・4年)所属する関西リーグでは、最終節を残して現在5位。フットサル史上最高成績の可能性も残っている。

医学部不祥事

相次いで判明

管理体制の甘さ浮き彫りに

医学部研究室内の不祥事が相次いで判明した。久野高義教授(分子薬理学・薬理学分学)が遺伝子を組み換えた大腸菌を廊下で培養するなど不適切な処理を行ったとして3月に文科省から厳重注意を受けた。



医学部研究室内の不祥事が相次いで判明した。野上直行学長は談話を発表しており、「学内の実験管理者や責任者に更なる注意喚起を促すとともに、より適切な管理体制の構築を進めるなど、社会に対する責任を果たすべく努力していきたい」としている。

男子バスケット 34年ぶりベスト8 西日本学生選手権

男子第58回西日本学生バスケットボール選手権大会5月20日に大阪府立体育館で行われた。神戸大は昨年の関西学生リーグ王者・近大を圧倒。90-58で下し、同大会で34年ぶりのベスト8に進出する快挙を達成した。

女子タッチフット 悔しさの残る4位 東西王座決定戦

秋季リーグを4位で終えた神戸大は、11月28日に王子スタジアムで行われた女子タッチフットボール第17回東西王座決定戦に出場し、日本一を目指した。しかし、1回戦の巨大戦、リベンジを誓った。

アメフト 歴史的勝ち越し リーグ3位

関西学生アメリカンフットボールリーグ最終節、神戸大・近大が11月29日にエキスポフラッシュフィールドで行われた。前半、神戸大が見事な攻め、近大を圧倒し、4つのTDを奪う。終盤は近大ペースになりかけたがそのまま逃げ切り、35-7で勝利した。これで通算成績を4勝3敗とし15年ぶりの勝ち越しを決めた。また、その後の試合で近大が関大に敗れたため神戸大のリーグ3位が決定した。

今季は初戦の関大に9年ぶりに勝利し、幸先の良いスタートを切った。しかし、次戦の京大戦ではQB大原(経済・4年)の負傷退場などもあり敗戦。そこから3連敗を喫した。だが徐々に調子を取り戻しリーグ3位に結びつけた。



2008年 10大ニュース

1. フットサル大学日本一
2. アメフト勝ち越し
3. 医学部不祥事相次ぐ
4. はしかまたもや流行
5. 震災から5000日
6. 新たな学長決まる
7. ベスト8 西日本バスケット
8. 東西王座4位 タッチフット
9. 新惑星発見なるか
10. 内定取り消し (1面へ)

昨年、首相の交代や地球温暖化の進行、有害物質入りの餃子など食の安全の問題、社会では様々な出来事があった。世界的な不況の影響では内定を取り消される学生が続出した。この激動の2008年、日本漢字能力検定協会により発表された1年の世相を表す漢字は「変」。変化の年だった。

神戸大ではどのような「変」があったのだろうか。医学部の不祥事ははしかの流行フットサル部の大学日本一など10大ニュースを通し神戸大の2008年を振り返る。

経済学部が休講 はしかの悪夢再び

神戸大は7月4日、学生1人がはしか(麻疹)に感染していることを確認したと発表。7日には感染の疑いも含めて12人の患者が発生した(11日には1人増えて9人が経済学部)。

神戸大は7月4日、学生1人がはしか(麻疹)に感染していることを確認したと発表。7日には感染の疑いも含めて12人の患者が発生した(11日には1人増えて9人が経済学部)。

神戸大は平成19年に4人の感染者が発生。2週間後にわたり全学休校した。平成20年度入学生に対しては健康診断で抗体検査を実施し、抗体が十分でない学生には予防接種を義務付けていた。

新たな学長選出 福田氏に

現職の野上直行学長が今年度で任期満了することに伴う次期学長選挙で、学長選挙会議は昨年11月28日、次期学長予定者を発表し福田秀樹・自然科学系先端融合研究センター長を選出した。神戸大初の一般企業出身の学長となる福田氏。次期学長予定者決定に伴って行われた記者会見では、自身の改革の柱として「世界最高水準の学術研究の場となること」などの4つを挙げた。また、スーパーコンピュータを活用した人材育成の場として、新研究科を設置する構想があることも明らかにした。

新惑星発見なるか 理学部が発表

未知の「惑星X」(エック、仮名)が、太陽系外縁部に存在する可能性が高まったという研究成果を、理学部研究科のパトリック・ソフィア・リカフィカ研究員と向井教授が2月28日、会見で発表した。太陽系外縁部とは、太陽系で現在確認されている最も太陽より離れた惑星、海王星より遠い場所のこと。リカフィカ研究員は、理論的に惑星Xが太陽系外縁部に存在する可能性を、太陽系の歴史と同じ40億年分のシミュレーションにより確認したと説明した。